



▲ 5月27日のオープンを前に施設を整備するボランティア



▲ 子どもやペット連れ可。ボランティアも随時募集中

Akanara

あかなら

大切な財産を守っていく 市民活動、観光交流の場に

周辺の自然と調和し、30年もの間、ゆつくりとときを刻んできた喫茶店「北時計」。「昨年、惜しまれつつも店を閉じましたが、「市民も観光客も思い入れの深いこの大切な財産を守っていかなければ」とボランティアサークル「あかなら（篠田信子代表）」が5月27日から「喫茶・ギャラリーあかなら」として営業を開始しました。

昨年、「北の国から30周年記念事業」の一環で、ロケ地である「北時計」を復活させようと実行委員会から運営を任せられ、記念事業の期間中、ギャラリーやコンサート会場としてオープンしたのがきっかけ。そこで実施した施設の活用に関するアンケートの中で、活用を熱望する声が多く、その結果を市に報告しました。それを受け、市民を交えた「北時計施設活用検討委員会」が立ち上げられ、その中でボランティアによる運営が望ましいと結論。運営団体を公募し、「あかなら」に決定しました。

篠田代表は、「昨年は、記念事業の実行委員会の後ろ盾があり

ました。正直、自分たちだけではやれる自信がなく、決断できないでいたのですが、仲間が『やろうよ』と後押ししてくれたので応募しました」と話します。

メンバーは20人ほどで、中には東京在住の方も。清掃やペンキ塗り、草刈りなどもすべてボランティアが行っています。メンバーの道田昇さんは、「周りの自然環境とそれに調和したこの建物を富良野の財産として残していきたい。市民活動や交流の場となれば」とボランティアに汗を流します。

今後について篠田代表は、「演劇工場とあわせて文化の流れができればいいなと思っています」と話してくれました。

